

30年度 氷見市教育総合センターだより 第6報

第2回 教育総合センター運営委員会

1月15日(火)

今年度も皆様方のご理解とご協力のもと、教育総合センター事業を実施してまいりました。ご支援を賜りありがとうございました。第2回運営委員会でいただきました貴重なご意見の一部を紹介します。

○教員の資質向上や研修会について

- ・センターで行う研修は大変精選されており、負担も少なくなってきた。
- ・研修会や県外視察の実施日について、部活動の日程等を配慮していただけたい。

○若手教員研修について

- ・若手への意識調査から、「学級経営」「授業力」「危機意識」に課題があることが分かる。若手に力をつけるサポートのあり方を、センターと情報共有しながら考えていきたい。
- ・若手教員研修会の参加人数を見てみると、小学校は多いが、中学校は少ない。もっと参加するように呼びかけていきたいと思う。

○ICT活用について

- ・ICTを活用するためには「教員がどう使うか」「生徒のICTスキルをどのように育てるか」の2つが必要である。小中学校9年間を見通した段階的な情報活用能力のスキルについて考えていきたい。現在の中学生は、タブレットは使えるがキーボードは苦手である。
- ・プログラミング教育についてよくわからないので、来年度小学校で実施するプログラミング教育の訪問研修に中学校の技術科の教員が参加すればいいと思う。

○その他

- ・現在「ほっとラインシート」を活用しているが、気になる子供のみ記入している状況である。「ほっとラインシート」の有効な活用方法を探っていきたい。

第2回 氷見市いじめ問題対策連絡協議会

2月20日(水)

会議の初めに、事務局から「平成 29 年度問題行動等調査結果」「平成 30 年度 2 学期までのいじめの状況」「各学校におけるいじめ問題対策の取組」について説明を行いました。

その後、文部科学省から出された「いじめ対策に係る事例集」を基に、学校や関係機関の方々から3グループに分かれて、「この事例の問題点はどこにあるのか」「どのように対応すればよかったのか」について、①いじめ防止対策推進法の視点から、②児童への支援・指導の視点から、③保護者対応の視点から協議しました。

各グループからは、初期対応の問題、複数の目で見ることの大切さ、継続的に子供を見ていくケアのあり方、クラスでの対話の大切さ、SOSを受け止める場所づくりの必要性等について意見を聞くことができました。事例には、解説が載ってはいますが、それぞれの立場から意見を述べ合うことは、とてもよい機会だったと思います。

最後に、西部教育事務所 生活指導主事の加藤豊先生に助言いただき、いじめは「一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの」とあるということを再確認しました。

それぞれの小中学校でも、「いじめ対策に係る事例集」を校内研修会等で活用願います。



<いじめ対策に係る事例集>
(文部科学省)

第3回 ICTを活用した授業づくり研修会

1月18日(金)開催

研究授業 6学年 総合的な学習の時間 「MIYADA Talks ～宮田の笑顔をもっと増やすために～」 氷見市立宮田小学校 表 克昌 教諭
講師 富山国際大学 教授 瀬戸 健 先生

第3回目となる「ICTを活用した授業づくり研修会」を、「ICT教育推進協力校」である宮田小学校で行いました。6学年の担任である表先生の授業を基に、ICTを効果的に活用した授業づくりの在り方について研修しました。

6年生の子供たちは、総合的な学習の時間に、「笑顔いっぱい宮田」を年間テーマとして、「認知症教室」「保育園訪問」「高齢者施設訪問」「一人暮らしの高齢者への花鉢プレゼント」「立山登山」「車いす、高齢者疑似体験」等の学習を進めてきました。本時では、追究内容をプレゼンテーションソフトでまとめたものをグループ内で発表し合い、内容や構成を見直すことを目指しました。友達の発表の中で分からない言葉があったとき、すぐにネット検索を行って調べる姿も見られるなど、タブレットPCを効果的に使いこなしていました。

講師の瀬戸先生からは、対話をつくり出すための子供たちの関係性や、対話の段階等について、分かりやすく説明していただきました。参加者の感想の一部を紹介します。



<タブレット画面を見せながら説明>

- ・本時の子供の姿から、対話の在り方を説明していただいた。教師が教材と真剣に向き合うことで、子供たちの「話したい」「伝えたい」という状況をつくっていくことができると思った。
- ・安易に「ペアで話し合う」「グループで話し合う」だけの「対話もどき」にならないように気を付け、子供たち自身が対話を求めるように授業を仕組んでいきたい。

第2回 ICT教育推進プロジェクト会議

2月21日(木)開催

今年度、ICTの活用を推進するために、学校、市教育委員会、企業が一体となった「ICT教育推進プロジェクトチーム」を立ち上げました。2月21日(木)には、第2回プロジェクト会議が開催され、今年度の取組を振り返りました。

会議で話し合われたことや、アドバイザーである東京学芸大学准教授 高橋純先生に指導していただいたことを、来年度のICT研修等に生かしていきたいと考えています。

高橋純先生の助言の一部を紹介します。



<タブレットPCを活用した授業について>

- ・タブレットPCを活用した授業の枠組み(学習の型)を考えないといけない。リーフレットには、「つかむ」「考える」「まとめる」という学習過程が明記されていたが、これが枠である。学習の型があることで、繰り返し学ぶことができる。知識や思考力を身に付けるためには、繰り返しの学習が必要である。
- ・シンキングサイクル(「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」)を支えるスキルとして、「ICT活用スキル」「ICT操作スキル」「学習規律」「ICT環境整備」がある。シンキングサイクルが「試合」だとすれば、スキルは「筋トレ」であり、どちらも大切である。


<プログラミング教育について>

- ・これまでは、「教科の目的を達成するためのプログラミング」「探究的な学習でのプログラミング」を求められていたが、これからはもっと柔軟な取組の事例が出されていくはずである。

外国語活動実技研修会でいただいた質問への回答

今年度も外国語活動実技研修会を2回実施し、多くの先生方に「外国語教育ひみプラン」による楽しい外国語活動を体験していただきました。研修後のアンケートから聞こえてきた声にお答えします。詳しい内容は教育総合センターの共有フォルダー「外国語活動Q&A」をご覧ください。

○3・4年生と5・6年生の授業の違いは？

	3・4年生	5・6年生
目 標	コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成	コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成
言語の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的理解 ・慣れ親しむ（定着は求めない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識理解 ・技能を身に付ける（定着させる）
活動の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れ親しむための活動を十分に行う。 ・聞く活動を十分に行う。 ・歌、チャンツ、ゲーム等の体を使った、児童が楽しいと思う活動を行う。 ・「書くこと」は扱わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや考えを伝え合うためのコミュニケーション活動を工夫する。 ・発達段階に合ったゲームを工夫する。 ・アルファベットを「書くこと」に関しては確実に身に付ける。単語や英文に関しては、例に従って書き写す活動のみとする。

○ALT と打合せをする時間がありません。

単元計画を利用しよう！	ALTは「ひみプラン」の単元計画を持っているので、授業が終わり次第、次時の確認をするとよいでしょう。準備してほしい資料やカード等があれば、直接話す時間がないならメモで依頼しましょう。依頼は授業の3日前までをお願いします。
机上のメモを利用しよう！	変更点や要望はALTの机上に(授業当日の朝までに)メモを置くことで時間短縮になります。帯活動に使う文もメモ書きを利用すると授業で困りません。授業直前5分であってもメモがあるとALTは安心です。
C4THを利用しよう！	研究授業や小中連携乗り入れ授業で中学校教員とC4THで打合せを行った学校があります。細かい説明が必要なときは中学校教員から説明してもらいましょう。

第3回 幼保小接続研修会 1月17日(木)

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、子育て支援課と合同で、本年度3回目の幼保小接続研修会を開催しました。

今回は、各小学校区毎に取り組んだ交流の内容について振り返り、次年度の計画に反映することを目的に実施しました。本年度は、昨年度以上に幼保小の交流が増え、入学に向けての不安感を少しずつ取り除くことができたようです。参加者からは、園と学校のそれぞれの実情に応じて、子供の段差になるような具体的な場面を取り上げ、スムーズな接続になるよう計画的に実践し、継続していくことが望ましいという意見が多く出ました。



講師の瀬戸教授からは、保育要録の見直しの2つのポイントについて説明を受けました。

- 1 「養護及び教育が一体的に行われるという保育所保育の特性を踏まえた記載事項の変更」
今までは、養護に関する事項と教育に関する事項が別の欄で記載されていたが、養護と教育は別々ではなく、一体的に行われるという保育の現状を踏まえ、記載しやすいよう記入欄が統合された。
- 2 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)の記入」
小学校での指導に活かされるよう10の姿を記入することとなった。これについては、幼稚園幼児指導要録でも、最終学年については同じように記入するよう見直されている。

新年度に向けて、幼保小の連携がますます深まっていくと思いますが、本研修で得た情報を各学校で共有し、新入生がいきいきと活動できるよう配慮をお願いいたします。

おすすめ 図書の紹介


本年度、新しく購入した新刊本の一部を紹介します。是非、ご一読ください。



みな仲良く
苦しんでいる人へ
おぼろげに
30

友だち幻想
菅野 仁 著
ちくまプリマー新書


社会学者である著者が、十年以上も前に、過剰な「つながり」がもたらす息苦しさに目を向け、「人と人とのつながり」の常識を丁寧に問い直し、若年層向けに新書にまとめた一冊です。



理科・一瞬の授業
一瞬という切り口での理科授業


理科・一瞬の授業
露木 和男
田中 千尋 著
不昧堂出版

感動のある授業とは、子どもも教師も「一瞬」を共有し、驚きに心揺さぶられる時間を過ごすことです。本書では、著者が実践を振り返り、「感動のある授業」「一瞬の授業」の事例を数多く紹介しています。授業改善に向けた方向性を知ることのできる一冊です。




英語のうた45選
村松 美映子 著
新星出版社

幼い頃から英語の音に親しむには、英語の歌を聞くことが最も効果的な方法です。ミュージカルの有名な曲や、ずっと歌い継がれてきた海外童謡など、とっておきの英語の歌を収録しています。2枚のCDに45曲を収録し、たっぷり楽しめる絵本です。




小学校理科授業
ネタ事典
驚見 辰美 著
明治図書

子どもが主体的に考えなくなる授業に変えるアイデアが満載です。「教材・教具」「実験・観察」「学習問題」の3つの観点から様々なアイデアが全単元を通して紹介されており、すぐに授業で活用できます。



中学校理科
授業のネタ
三好 美寛 著
明治図書

ワクワク感をぐっと高めるネタで、生徒が理科好きになること間違いなし。「タンポポの花と綿毛は同じ高さ?」「ポップコーンで学ぶ状態変化」「煮干しを使った食物連鎖の実験」等、すぐに授業に活用できるネタが収録されています。



これだけは身につけたい
指導の技45
佐々木 昭弘 著
明治図書

ただ漫然と日々の授業をこなしているだけでは、授業力は身に付きません。本書は、教師に求められる指導の技を、「発問」のつくり方や「板書」の基本などテーマ別に、具体例を交えて分かりやすく解説しています。明日からの授業に生かせる一冊です。

今回は、理科や外国語活動の授業ですぐに役立つ本を中心に紹介します。また、学習指導の基本について振り返ることのできる本も紹介しています。是非、手に取ってみてください。また、「教職研修」や「指導と評価」、「学校教育相談」等の教育雑誌もたくさんそろっています。★是非、ご活用ください。

「みんなで学ぼう！ふるさと氷見」ホームページが公開されました。

このホームページでは、各小中学校、地域で行っている様々な教育活動を積極的に発信していきます。現在、「ふるさと氷見」教材の紹介、ふるさとクイズ(英語版)コーナーに加え、「くらの咲くころ」(防災無線チャイム 17:00～)の歌も聴くことができます。また、スマートフォン等の端末でも快適に見ることができます。

*市役所HPやセンターHPよりアクセスできます。

(アドレス <http://www.himi-c.tym.ed.jp/>)



<このバナーをクリック>